

学校 教育 目標	みんな かがやけ いずみ野小				
	【知】自ら学び、考え、粘り強く解決しようとする子を育てます。 【徳】自分を大切に、人を思いやり、しなやかに生きる子を育てます。 【体】基本的な生活習慣を身に付け、自他の命を大切にすることを育てます。 【公】進んで人とかかわり、わがまちを理解し、夢の実現に向かって挑戦し続ける子を育てます。 【開】自分を見つめ、多様性を尊重し、共生する子を育てます。				
学校 概要	創立 1 周年	学校長 齋藤 敦子	副校長 小西 隆一郎	2 学期制	一般学級: 12 個別支援学級: 5
児童生徒数: 357 人	主な関係校: 新橋小学校、いずみ野中学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	いずみ野中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自分づくりに関する力> <持続可能な社会の創造に貢献する力>	いずみ野小学校 新橋小学校 いずみ野中学校	「夢の実現に向かって」 ・学びの目標の実現に向かって、挑戦し続ける子ども ・自他の違いを認め、進んで人とかかわれる子ども ・自尊感情を高め、自信をもって生きていく子ども 【取組目標】 小・小中での授業研究や教職員間の交流を通して、指導観・教科観の共通理解を図り、繋がりのある小中一貫教育の推進を行う。 ①児童生徒一人ひとりの理解や情報交換の充実を図り、9年間つながりのある個に応じた教育の継続 ②各教科における授業のつながりと一人ひとりの特性を意識した指導内容の充実

中期 取組 目標	○自分らしく輝き、夢や目標の実現に向かって挑戦する姿勢を育てます。 ・主体的に考え、自己決定する力を育てます。 ○自他のよさや違いを理解し認め合う中で、多様性を尊重し、協動的に行動する姿勢を育てます。 ・様々な人とかかわり、自己有用感を高めます。
----------------	--

重点取組分野	具体的取組
知 授業改善	①学ぶことに興味関心を持ち、自ら学び、考え、粘り強く解決しようとする子の育成に向け、学年で教材研究を行い、主体的・対話的で深い学びを目指した探求的な学習や、体験活動、ペア・グループでの対話的活動を取り入れた単元計画を進める。②児童に身に付けさせたい資質・能力を明確にした個別最適な学びと協動的な学びの実現を目指し、少人数指導や特別支援教育を取り入れ、児童一人ひとりの状況に応じたきめ細やかな学習支援を行う。③年間の教育課程を実践しながら、児童の実態に応じて改善したものを記録し、次年度の教育課程を編成する。
徳 豊かな心	①自他を思いやり大切にすること、道徳教育や人権教育を推進し、児童の人権意識を高めることで、多様性を尊重し、しなやかに生きる子の育成を図る。②たてわり活動や生産活動を通して、他学年の児童や地域とのかかわりを充実させ、相手の立場や気持ちを大切にすること、人権意識や自己有用感を高める。
体 健やかな体	①委員会活動や集会などを通して食育への関心を高め、6年間の切れ目ない食育の推進に取り組み、健全な食生活を実施することができる児童の育成を図る。②「横浜市体力・運動能力調査」の分析に基づき、家庭と連携して、児童の生活習慣の改善と運動・スポーツに親しむ態度の育成に取り組む。
公 自分づくり教育	①学校行事や児童会活動を通して、自分らしさを発揮し、互いのよさを認め合い、将来の夢や希望、目標をもととする態度を育てる。②「自分づくりパスポート」を活用して自己を客観的に見つめる機会を設ける。今までの記録の積み重ねを振り返ることで自分のよさを発見したり、自分の学びや成長を実感したりして、前向きに生きる力、自分らしく生きる力を育む。
いじめへの対応 児童指導	①定期的に児童にアンケートや面談を行い、いじめの早期発見、早期解決に努める。②学年や専任、関係教職員との間で情報共有を密に行い、適切な指導、支援を行う。③月1回以上いじめ防止対策委員会を開催し、積極的にいじめ認知をする。認知した案件については組織的に対応し、経過観察を丁寧に行い、再発防止に努める。④横浜プログラムを活用し、多面的な児童理解と具体的な支援・指導を行う。⑤安全安心で居心地のよい学校生活に向けて、学校スタンダードをもとにした全職員共通の指導、支援を行い、適宜見直ししていく。
特別支援教育	①一人ひとりの特性を全教職員が共通理解し、支援の方法を共有したり関係機関との連携を図ったりして柔軟に合理的配慮を行う。②支援を必要とする児童について保護者と合意形成を図り、個別の支援計画・指導計画を作成して具体的な支援を行う。また、面談等を通して保護者と相談しながら、必要に応じてその見直しを行う。③横浜センターの機能を利用したコンサルテーションを活用し、より適切な支援を行う。また、校内研修を計画的に行い、特別支援教育についての理解を深める。
多文化共生	①外国につながる児童が、自分の国の文化や言葉を大切にできる機会を作り、全校児童の多文化共生の取組を推進する。②自分らしさを発揮し、自信をもって生活できるように、多様性を認め合う児童の育成を図る。③外国につながる児童一人ひとりの状況を的確に見取り、「個別の支援計画」を作成し、実施・評価・改善をしながら、様々な角度から日本語能力の向上を支援する。④外国につながる児童や保護者の支援のため、国際交流ラウンジやボランティア団体などの関係機関との連携を図る。
人材育成・ 組織運営(働き方)	①校内OJTやメンターチーム等の協動的な学びを推進し、教職員一人ひとりが自分らしく輝き、主体的に学び続けることができる職場づくりを目指す。②新学習指導要領の実施や1人1台端末の活用など教育内容の多様化に対応するため、日課表の工夫やチーム体制の構築により教職員の学ぶ時間を確保し、教職員の資質・能力の向上と働き方改革の両立を目指す。③新設校として取り組んだ業務について、その資料や成果と課題を系統的に整理して保存し、次年度以降の業務改善につなげる。
地域連携	①保護者が教育活動に参加できる機会をつくったり学校運営協議会と連携したりすることで、学校との信頼関係を深める。②MSIや材を学校教育活動に活用し、児童の愛校心をまちの方々と共有することができる取組を行う。③小中・小高の連携を行うことで、児童が将来に夢をもてるようにする。④児童や保護者、地域や教職員が安心して学校生活が送れるように、学校の取組をHPなどで定期的に発信する。
GIGA、情報教育	①情報モラル教育の充実を図りながら、主体的に考え自己決定する力を育てる。②GIGA端末のネットワーク機能を活用し、他学年児童や地域、保護者、外部の専門家など様々な人とのかかわりを推進し、自己有用感を高める。③小中9年間で育てたい情報活用能力の資質・能力や、資質・能力を伸ばすための3つの柱について校内外の研修を通して全職員で内容を共有し、それぞれの学年・教科に組み込みながら育成を図る。